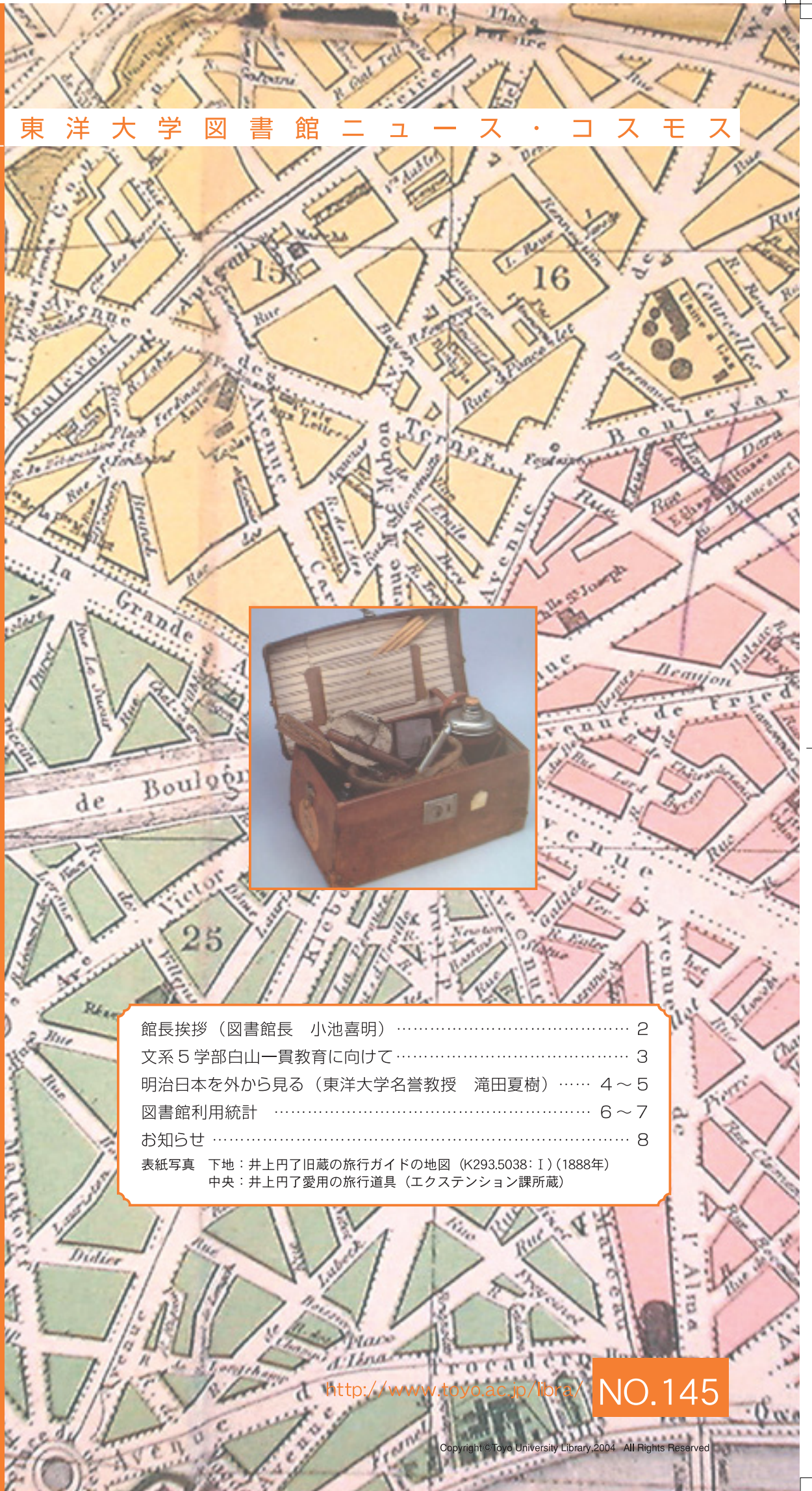


KOSMOS



館長挨拶 (図書館長 小池喜明)	2
文系5学部白山一貫教育に向けて	3
明治日本を外から見る (東洋大学名誉教授 滝田夏樹)	4~5
図書館利用統計	6~7
お知らせ	8
表紙写真 下地: 井上円了旧蔵の旅行ガイドの地図 (K293.5038: I) (1888年) 中央: 井上円了愛用の旅行道具 (エクステンション課所蔵)	

◆ 館長挨拶 ◆

図書館へ いらっしやい

小池 喜明
(こいけ よしあき)



・東洋大学図書館長
(平成16年4月就任)
・東洋大学文学部教授

駒込の東洋文庫といえば、大英博物館・フランス国立博物館・ロシア東洋学研究所・ハーヴァード燕京研究所と並んで、東洋学分野での世界五大機関の一つとして知られている。周知のモリソン文庫(洋書約二万四千冊)と、創設者岩崎久彌氏みずからが蒐集した和漢の稀観書三万八千冊の岩崎文庫を基礎として、大正十三年(一九二四。前年九月関東大震災、翌年四月治安維持法公布、五月普通選挙法公布)に設立された東洋文庫の蔵書数は八十余万冊。

駒込近辺の中学・高校に通いながらも、当時の私はもちろん、その名称すら知らなかった。にもかかわらず、全く未知のこの東洋文庫のありようが、その後の私の進路と図書館像を決定的なものにした。高校三年の夏、目をかけてくれていた物理の先生から勧められて読んだ、野上弥生子の『迷路』(当初『世界』に連載、現在「岩波文庫」所収)中の一節・一文によってである。同書は二・二六事件前後の暗い谷間の時期における一青年の精神的道程・成長を活写した秀作であるが、左翼運動・東大除籍処分という挫折と彷徨ののち、漸く郷里大分での西教史中心の図書館の設立に立直りの糸口を見出した彼が、指針を仰ぐべく訪れた東洋文庫を描いた場面に、こういう台詞がある。「・・・同時に省三はおもった。もし誰か大学生で、東洋かシナに関してなにか専攻しようとして、願書をだすまえにほんやりこの書庫にはいったとしたら、一瞥であつとなり、出るまでにはきっと志望を変えていたに違いないと」。なんと図書館は、驚嘆と感動の場であり得ることか。

わが東洋大学附属図書館の蔵書も、白山だけで約七十万冊(和書四十八万、洋書二十二万)、朝霞・川越・板倉を含めれば約一二〇万冊。有数の蔵書数である。もとより東洋学関係の専門書となれば、質・量ともに、

東洋文庫の比ではあるまい。しかし大学図書館の使命と意義は、別途ある。「東洋大学附属図書館は大学図書館の性質に鑑み高度な学問的要請とともに教養を深化させるための要求にも応えねばならない」(「東洋大学附属図書館の理念」平成十一年三月)。「教養」の「深化」である。だから、落語全集・講談全集から、映画ビデオ・DVDまで蔵する。

昨年六月二十三日刊行の米誌「タイム」は、直前に死去した俳優グレゴリー・ペックにたいし、特に一文を献じている。「ローマの休日」、「ナヴァロンの要塞」、「オーメン」等に主演した、あのペックである。記事は、とりわけ「紳士協定」でユダヤ人差別に、「アラバマ物語」(To Kill a Mockingbird)で人種問題に果敢に挑んだ、ペックの人格人柄を顕賞する。

彼は「アラバマ物語」で南部小都市の弁護士 Atticus Finch の役を演じている。有名な場面がある。白人女性強姦の冤罪で逮捕された黒人青年の弁護を引き受けた彼が、白人で占められた陪審員たちにより敗訴し、全白人からの白眼視の中、法廷を引上げる場面である。まとめて二階席に押し上げられていた黒人たちは、感謝の面持もあらわに、全員が起立脱帽して彼を見送る。その時、老黒人牧師が傍の Finch の娘(七・八歳、のちの原作者)に言う、「お嬢さん、起立しなさい、お父上のお通り(pass)です。」因みにこの記事の前月、アメリカ映画協会はこの弁護士 Atticus Finch をアメリカ映画史上のトップ・ヒーローに選出した。俳優個人と役柄の混同を十分に戒めながらも、この記事はこう結んでいる。America, stand up. Gregory Peck has passed on. 大学図書館では、こんな文化にも出会える。東洋文庫とは異質の利点である。図書館へいらっしやい。

文系5学部

白山一貫教育に向けて

◆白山図書館の状況◆

平成17年4月に1・2年生を白山に迎えるにあたり、図書館では、次のような作業や工事を実施し、予定しています。

1. 書架の移設および増設 (16年9月および17年2～3月)
2. 座席・パソコンの増設 (17年2～3月)
3. メディア・スクエアの改装 (17年2～3月)
4. その他の館内の改装 (16年9月および17年2～3月)
5. 館内の図書や雑誌の移動 (配置場所の変更) (16年7～3月)
6. 朝霞分館から白山図書館への3万冊の図書の移送 (17年2～3月)

すでに夏季休暇前から、館内の図書や雑誌の移動を行っています。今後も順次移動を行っていきます。配置場所が変わっていますのでご注意ください。

また、この夏季休暇中に、板倉保存書庫へ5万冊の図書や雑誌を移送しました。

そのほか、大幅に配置が変わりましたのは、

1. 地下1階の東洋大学刊行物を地下2階へ
2. 地下1階の専任教職員著作コーナーを同じフロアの東洋大学刊行物のあった場所へ
3. 地下1階の法律および教育関係の雑誌を地下2階電動書庫Bへ
4. 地下1階文庫・新書・旅行ガイド等を1階へ
5. 地下2階らせん階段脇の書架を撤去し閲覧席を増やし、図書は地下1階へ
6. 電動書庫Bの新聞縮刷版を電動書庫Aへ
7. 地下1階辞書体目録を電動書庫AとBへ

詳しくは、掲示等でご確認ください。しばらくの間ご不便をおかけしますが、来年4月までには、より探しやすい配置に整え、リニューアルした図書館に利用者の皆さんをお迎えするべく職員一同頑張っています。今後ともご協力をお願いします。

◆朝霞分館の状況◆

朝霞分館は、昭和52年に文系学部1・2年生が朝霞キャンパスへ移行と同時に分室として開室されました。

現図書館は昭和61年に東洋大学の100周年事業の一環として建設され今日に至っております。

この間に図書資料も年々増加し、現在約27万冊の蔵書となり、学生の皆さんの学習支援に活用いただいております。

平成17年度からの白山一貫教育に伴い、今まで朝霞分館で構築してきた「教養的機能・学習的機能」を主とした資料は可能な限り白山図書館に移管して皆さんの利用に供することができればよいのですが、白山図書館の収納にも限界があり、また、座席数を増やすスペース確保も必要となっています。

そこで、白山一貫教育に伴う「朝霞分館」から「白山図書館」への移送準備は白山図書館と朝霞分館の重複本の調査および新学部での利用図書の確保も考慮しながら下記のとおり計画しております。

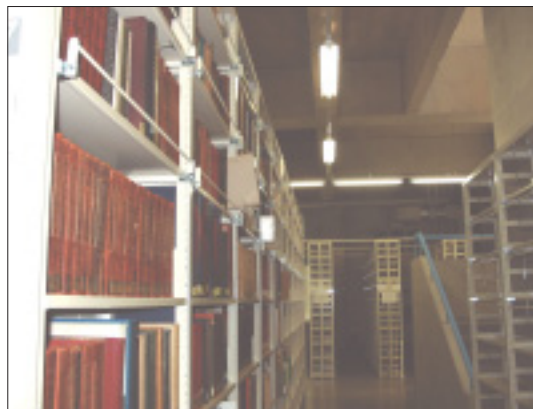
なお、移送作業は、現在朝霞校舎で学んでいる文系5学部の1・2年生の勉学に支障が生じないよう学年末試験後を予定しております。

1. 移管図書の選定作業 (3万冊)…夏季休暇中に終了
2. 移送作業…2月中旬 (学年末試験終了後)

※16年度の学年末試験終了後に「3万冊」を移管し、17年度からの利用状況に合わせて利用の多い図書「2万冊」程度を随時移管の予定です。

※朝霞開設以来1・2年生を対象に収書・構築してきた図書の多くは朝霞分館に残るわけですが、可能な限り「シャトル便」を活用して本の取り寄せ等、皆さんの利用の便宜を図って行く所存ですので協力をお願いします。

■板倉保存書庫



平成16年度中に5万冊の図書や雑誌を移送

明治日本を外から見る

円了の『世界旅行記』を読んで

滝田 夏樹
(たきた なつき)



・東洋大学名誉教授
・井上円了センター研究員

2003年秋出版の『井上円了・世界旅行記』（柏書房）に収められた三冊の旅日記から、ぼくらが受けとるメッセージの方向は、読む人によってはかなり違うものになるかも知れない。だが誰しもが感じるとことの第一は、明治時代、三度にわたって世界を長期周遊した一教育者の、世界旅行に賭けた情熱であろう。よく動き、よく見、よく聞き、そしてよく記録したその行動力の源にあったものは何だろうか。ぼくらは、それぞれの目で、これらの記述の奥にあるものを、読み解いていく必要があると思う。淡々とした文章の中にひそんでいるスピリットを探り当てることが、重要なのだ。

三つの旅行には、それぞれ固有の明確な動機があったようだ。まず、明治憲法発布、国会開設直前の日本を独り飛び出した最初の長い欧米の旅の目的は、西欧文明の根底である「キリスト教」を、本場でじっくり体験してみようとする遠大なものだった。若い頃、外来宗教であるキリスト教の、仏教側からの批判者として発言したことのある自分の立場を、より責任のあるものにしておきたかったからだ。しかし円了自身がこの世界の旅から得たものは、さらに計り知れぬくらいに大きかった。それは、常に外なる世界の視点からものを考え、実体験することが、いかに根本的に貴重であるかということであり、以後の円了の、教育者としての態度を決定するくらいに重要な教訓となった。帰国した円了の人格には、出発前とは全く違う何かがそなわっていたはずである。真の冒険者なればこそ、それが見抜けたのであろう。年齢からいえば大先輩にあたる勝海舟は、帰国したてのこの若い教育者を自邸に呼んで、励ましの言葉を贈り、相当の寄付を惜しまなかったという。

日露戦争直前に行われた、二度目の世界旅行は、自

分が創り経営して十数年になる、哲学館の現在を、教育者の目で、外から確認するための旅だった。哲学館の元生徒や教授陣には、進取の気性をもった人が多かったらしく、インドで再会した大宮孝潤や河口慧海を始めとして、世界各地に雄飛していた学校関係者がおり、その外国の土地で彼らと語り合うことが出来た。哲学館は、苦しい経営のなかにありつつ、このように発展途上にあつたのである。だが「出る杭は打たれる」の諺どおりに、この期間の哲学館は、文部省からの、教育方針に対する干渉措置によって、受難の一時期を迎えることにもなった。円了が、日本の国体や、国民性の独特の限界を痛切に知り、東洋のリーダーたるにふさわしくない未熟さを味わったのが、この世界旅行の副産物であった。円了は、今後の青年たちの教育を急ぐべく、帰国後ただちに「修身教会」運動を起こした。国民ひとりひとりの精神の育成を願ったが、間もなく日露戦争という大波がこれを呑み込んでしまう。円了の遠い理念を現在の言葉でいえば、それは、「世界市民性」という思想に通ずるのではないだろうか。

そして、明治末年の十月月に及ぶ最後の世界旅行は、直接の目的を、日本人の移民の可能性を探ることに置いていた。円了の、全国巡回講演の聴講者のなかには、日本を脱出して移民の道に活路を見出そうとする者も増えていた。そのための情報を求めて、未知の南半球の奥深くに円了は初めて足を踏み入れる。オーストラリア、南アフリカそして南米。だがこの世界旅行においても、旅行者が体験したものは、当初の目標よりはるかに大きいものとなった。シドニーで、たまたま、南極探検隊長の白瀬中尉、また南極探検船「開南丸」船長に出会ったことが、円了の地球感覚に火をつけたともいえよう。南半球を出発点とするこの「世界」旅

行で、円了は恐らく初めて、自分が地球という、円い惑星の上に生きる存在だという不思議な事実を目覚めるのである。そしてもう一つ。

円了がこの世界旅行に出発した1911年は、長い明治の時代も終わろうとする年であったが、世界自体が大きく変わろうとする、いわば節目の季節に当たっていた。つまり現代の言葉でいえば、「近代化」の兆候が地球上のあらゆる国々で、今や隠れようもない勢いとして、芽を吹き出しつつあった。お隣の大きな国、中国に辛亥革命が起り、共和制が誕生したのもこの年である。円了が、船旅や陸路を重ねて訪ねていく先々で、この「近代化」現象に出会って面食らうありさまは、後世のわれわれの目からは、はなはだ興味深い。それがことごとくありのままに記録されているのだ。そのなかの一つに、南半球各国の大学訪問で知った、女子学生の数の大きさと女性の社会進出の圧倒的現実がある。この時、日本での女性の地位はまだはるかに低かった。東洋大学が他大学に先駆けて女子学生を受け入れたお手本が、いわゆる西欧先進国ではなかったのは、大きな驚きである。

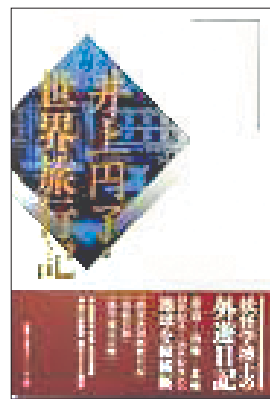
『南半球五万哩』の旅のコースは、途中のいろいろの都合から、結局地球全域に及ぶことになるが、出色の大寄り道は、イギリスの観光船エボン号による、北極海観光ツアーだった。ノルウェー最北端の崖の上から眺めた沈まぬ太陽の神々しさを、円了は、仲間の旅行者とともに称え、祝杯を挙げているが、これは、「脱・明治的感覚」とでも呼ぶべき、未知の感動だった。ふたつの極をぎりぎり見極めた円了はこの時、二百トンの探検船に命を託し、悪戦苦闘しながら南極点をめざしている、わが白瀬隊の成功を心から祈っただろう。

旅はいつも都合よく進むとは限らない。円了の旅日記にも、不快感が吐露されていたり、無聊がひしひしと伝わってくる箇所が幾つかある。だが旅には、思いもかけない展開と発見が用意されている。南半球視察の旅のはずが、とうとう地球周遊の大旅行に変わってしまったのなどは、その最たる例といってよいだろう。円了の目がこのとき見たものは、南米のコーヒー園だけではなかった。行く先々の世界の広さ、多様さ。流れている時間の速さとそれが変えていくもの。それぞ

れに目標を持つ人々の生活の、何という多彩なありよう。淡彩な文章に盛られた、こうした豊かな旅の真髓と旅行者の感性を見逃してはなるまい。

このような旅をしながら、しかし円了が片時も忘れていなかったことの第一のものが、明治国家・日本という若い祖国への思いだったことも挙げておかなければならない。日本への過度の思い入れとも取れる発言が時々あって、ぼくらは、円了が明治の人だったことを改めて思い出すのである。考えてみれば、円了の最初の米欧歴訪では、みずから「政教子」と名乗る国家主義者の著者が、ほとんど対決の姿勢でキリスト教社会にのぞんだのであった。そこでの一挙手一投足は、大いにぼくらの関心を呼ぶものだったろう。しかし『政教日記』は、敢えてそのような旅行者としての記述を封じてしまい、旅行報告に終わっている。第一の旅の円了は、まだ本当の旅行者になりきっていなかった、といえる。

第二、第三の世界旅行における円了は違った。明治人独特の、祖国への熱い思いに変わりはないが、彼は先ずいって旅行者として、外から日本を見てみようとする人であった。しかし、その「旅行者」円了を準備したのが、第一の旅だったことは言うまでもない。そして最も円熟した旅行者の本領を発揮しているのが、最後の旅における円了であったことも間違いのないところだろう。『南半球五万哩』は、明治時代における旅行そのものとしても、世界旅行記としても、たぐい稀な、現代にも届く輝きを放っている。



『井上円了・世界旅行記』

柏書房 2003年

井上円了著 東洋大学井上円了記念学術センター編
白山・朝霞・工学部・板倉所蔵 092.8:IE57

図書館利用統計



(「東洋大学附属図書館業務運営年次報告」より)

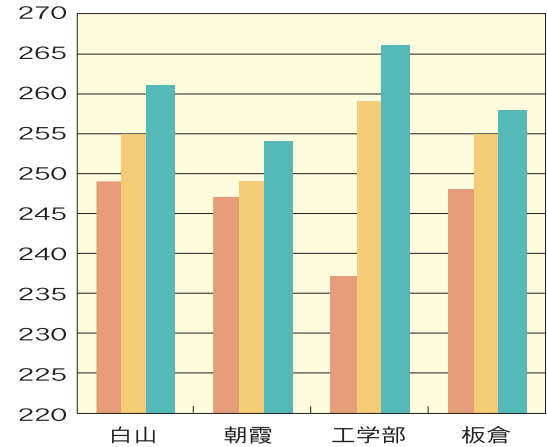
平成13年度から15年度まで、3年間の利用状況などは、次のとおりです。

■開館総日数

年度	白山	朝霞	工学部	板倉
13	249	247	237	248
14	255	249	259	255
15	261	254	266	258

※各キャンパスとも、利用者の要望に応じて年々日数増

■開館総日数



■利用対象者数

年度	白山	朝霞	工学部	板倉
13	18,874	8,345	5,480	1,814
14	19,413	8,337	5,441	2,192
15	20,465	7,994	5,440	2,474

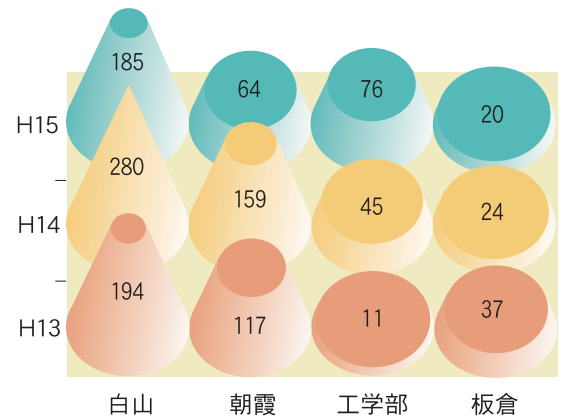
※学科・専攻設置に伴い学生数増 校友・学外者の登録増

■入館者数

年度	白山	朝霞	工学部	板倉
13	428,600	276,657	132,195	112,682
14	434,511	257,152	294,809	129,986
15	401,453	235,996	283,400	139,595

※平成13年12月工学部新図書館完成により利用者増

■学生リクエスト(購入希望図書)件数



■見学者数

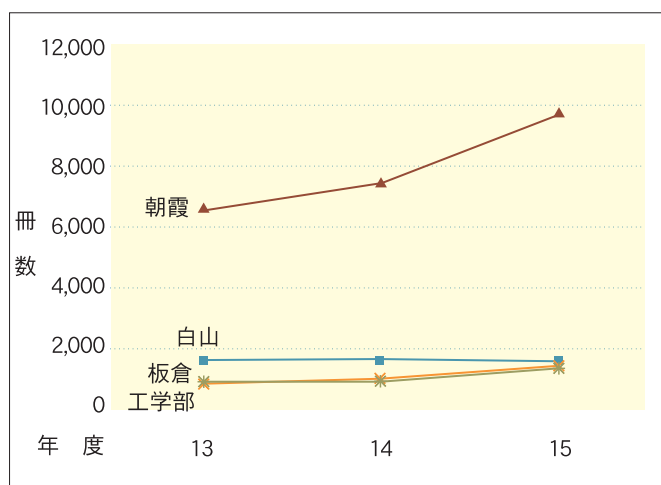
年度	白山	朝霞	工学部	板倉
13	7,946	2,065	—	1,911
14	7,695	2,578	1,191	2,024
15	7,316	3,024	1,046	1,659

※13年計11,922
14年計13,488
15年計13,045 } 高校生見学・オープンキャンパス・浦水会など

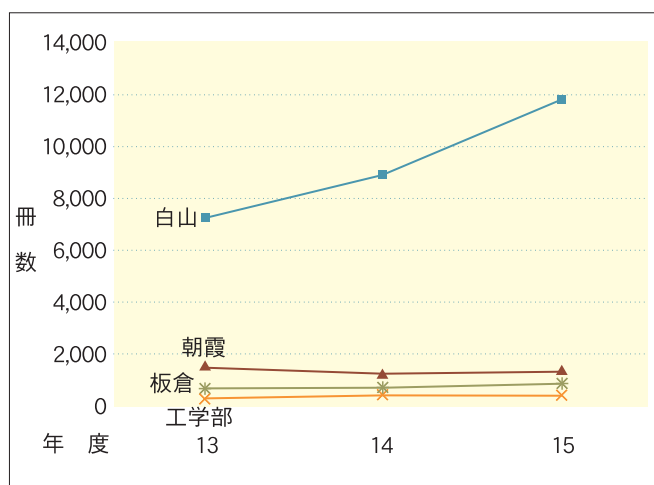
■貸出冊数(視聴覚資料を含む)

区分	年度	白山	朝霞	工学部	板倉	考察
学生	13	69,865	55,616	33,320	10,382	白山・板倉の増加が目立つ
	14	74,739	51,198	30,197	11,860	
	15	80,176	51,310	27,383	12,640	
大学院生	13	10,475	429	3,113	577	
	14	9,949	463	1,986	616	
	15	11,102	396	1,771	641	
短大生	13	1,137	1	0	3	平成14年3月短大廃止
通信教育生	13	4,724	400	10	29	白山・朝霞で年々増加
	14	5,551	662	59	14	
	15	6,439	733	34	5	
教職員	13	5,945	2,916	1,465	323	
	14	5,979	2,314	1,325	369	
	15	6,259	2,657	1,439	568	
校友・その他	13	3,806	842	696	145	白山・朝霞は校友・その他(他大学・協定校)の利用が年々増加
	14	3,856	1,075	719	267	
	15	5,166	1,318	700	265	

■学内相互貸借（受付）



■学内相互貸借（依頼）



■他大学図書館間の相互協力（文献複写・閲覧・相互貸借）

区分	年度	白山	朝霞	工学部	板倉	
文献複写	13	受付	1,082	247	353	97
		依頼	1,268	59	430	211
	14	受付	1,171	216	379	94
		依頼	835	76	376	179
	15	受付	994	272	397	138
		依頼	952	79	468	208
閲覧	13	受付	300	16	10	0
		依頼	463	26	7	5
	14	受付	240	21	28	1
		依頼	487	21	11	1
	15	受付	242	11	24	1
		依頼	473	19	14	3
相互貸借	13	受付	543	155	55	37
		依頼	177	34	6	2
	14	受付	509	107	46	37
		依頼	131	23	10	2
	15	受付	383	147	60	32
		依頼	189	21	9	2

■データベース利用件数 平成15年度

ProQuest Academic Research Library (2,346)
ProQuest New York Times (313)
日経テレコン21 (145,236)
ネットで百科 for Library (3,770)
CSA Sociological Abstracts (925)
大宅壮一文庫雑誌記事索引検索 (660)
NICHIGAI/WEBサービス WHO (1,310)
NICHIGAI/WEBサービス MAGAZINPLUS (12,067)
First Search (51)
EBSCOhost オンラインデータベース (640)

■図書館刊行物（16年度刊行物を含む）

図書館利用のしおり
東洋大学図書館ニュース
ΚΟΣΜΟΣ (コスモス)

図書館活用ガイド

- ・図書館でできること
- ・図書の探し方OPACを使おう！
- ・図書の予約・取り寄せ
- ・論文や雑誌記事を検索しよう！
- ・WEBで簡単！データベースに挑戦！
- ・どうする？どうする？論文・レポート作成



東洋大学附属図書館蔵書展 ◆ 時空間へのご招待 ◆

日時 平成16年11月20日(土)、21日(日)
10時30分～16時30分

場所 横浜ランドマーク・タワー 26階
富士通ショールーム 入場無料

展示 『酒顔童子』などの絵巻物
様々な形態の百人一首
『東海道中膝栗毛』『南総里見八犬伝』
『日光建築装飾図』『日本誌』など

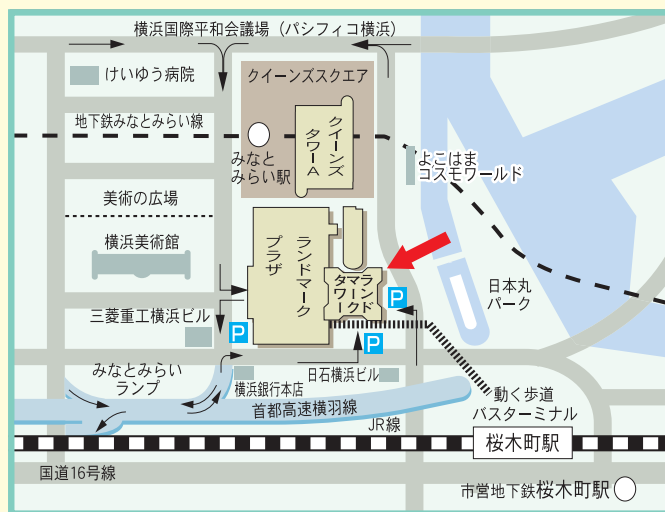
■バーチャルによる図書館案内

■講演会 本学教員による展示や横浜にちなんだ講演が4回あります。

今年度、東洋大学が開催する“神奈川 YEAR”に図書館企画として蔵書展を開催します。4キャンパスの図書館が協力して選りすぐった資料を紹介するので、必見です。

また、パソコン映像に加え、酒脱な講師のお話を楽しんでください。

ランドマークタワーへのアクセス



【桜木町駅（JR・市営地下鉄）より】桜木町下車「動く歩道」利用で徒歩5分
【みなとみらい駅（みなとみらい線）より】徒歩3分

平成15年度アンケート調査報告（白山図書館・朝霞分館）

平成15年11月から12月にかけて行いました白山、朝霞キャンパスで実施したアンケートにご協力頂きありがとうございました。

6,989名の皆さんから回答を得ることができました。

平成16年3月に報告が纏まりまして、各キャンパスの図書館カウンターに備えてありますので、ご覧ください。全体で学生の皆さんの約83%が月1回以上図書館を利用しています。

このアンケートをその後の図書館運営にどう活かすかが重要なのですが、改善された事項を下記に掲げます

1. 白山図書館は、休日開館を大幅に増やした。
2. 4キャンパス共通条件として、貸出冊数を学部生は5冊から10冊へ増やし、4年生の貸出期間延長枠を設けました。
3. 4キャンパス共通で検索可能なオンライン・データベースを増やし、講習会、ガイダンスを開催しています。
4. 利用方法の説明として、「図書館活用ガイド」を数種類作成し、館内でいつでも見られるように配置しました。

今後も利用しやすい図書館を目指していきますので、ご意見をお寄せください。

なお、改善点については、随時ホームページなどでお知らせしますので、ご覧ください。

4館だより

返却期限日に遅れないように！ (夏季休暇中長期貸出)	白山
白山 10月7日(木)	一貫教育準備のため、書架の変更があります。掲示等でお知らせしていますので、ご注意ください。
朝霞 10月15日(金)	①「正倉院寶物 シルクロードにルーツを探る」(ビデオ)は貸出可能です。ぜひ利用してください。 ②平成17年4月から文系5学部の白山キャンパスでの一貫教育が開始されても、今までどおり利用可能です。平成17年4月からも足を運んでください。
工学部 10月5日(火)	10月の展示コーナーのテーマは「文学賞」です。秋の夜長、名作をお供に過ごしてみるのはいかがでしょうか？
板倉 10月8日(金)	6月より四聖像前に展示ケースを設置しました。来館された際には是非ご覧ください。只今展示中『東洋大学所蔵資料図録』

東洋大学図書館ニュース コスモス2004秋・冬 No.145 2004年10月1日発行

編集：コスモス編集委員会

発行人：小池 喜明

発行所：東洋大学附属図書館 東京都文京区白山5-28-20 Tel.03(3945)7324